

高等学校体育理論における「スポーツとの多様な関わり」に関する 思考を深める授業の検討

ーパリ・オリンピックを題材としてー

高木 駿太 (筑波大学)

1. 目的

本研究の目的は、高校生の体育理論の授業において、オリンピックを題材として「スポーツとの多様な関わり」に関する思考を深めることを目指した授業を実践し、授業の成果を明らかにすることで、学習に効果的な授業方略を提案することである。

2. 研究方法

- 1) 対象者：高等学校2年生2クラス76名
- 2) 調査方法：計2時間の授業とその間のスポーツ観戦演習で構成された単元を実施した。

生徒のスポーツとの多様な関わりについての思考の深まりを検討するため、授業中のワークシートにスポーツとの「する・みる・知る・支える」のそれぞれの関わり方についての設問を設定し、観戦前と観戦後、他者との意見共有後に自由記述で回答させた。

- 3) 分析方法：各設問で得られた記述をデータとして切片化し、キーワードでカテゴリーに分類した。その後、生徒ごとに3つの回答を比較して、それぞれの変容を検討した。

表1 単元計画

第1回 (7月上旬)	夏季休業中の課題	第2回 (9月上旬)
「スポーツとの多様な関わり」 ○パリ・オリンピック「近代五種」を題材に、「みる」「支える」「知る」行い方を紹介	「パリ・オリンピックの観戦」 ○種目を各自で選択し、ワークシートに記入しながら観戦	「自分なりのスポーツとの関わり」 ○パリ・オリンピック観戦の共有 ○自分なりのスポーツとの関わり方をグループワークを通して深める

3. 結果と考察

それぞれの関わり方において、学習後にそれまでにない様々な目的や方法が示されたこと、別の目的を達成するための関わり方についての記述がみられるようになったことから、本授業を通して自分の生活や趣味・嗜好に合った「自分なりのスポーツとの関わり方」についての考えを深めたことが示された。また、学習後にそれぞれの関わり方に意欲的な記述がみられたことから、それぞれの重要性を理解し、体験を通して楽しさを実感することが、主体的な関わりに重要であると推察された。

そして、それぞれの関わり方において、グループ活動を通して新たな視点を獲得し、考えを広げていたことが示された。このことから、本研究で活用した集散型学習活動が、スポーツへの多様な関わり方への理解を深めることに効果的で合ったと考えられる。

さらに、「知る」関わり方において、学習後に「知る」関わり方と他の関わり方を組み合わせた記述がみられるようになったことから、本研究で行なった「知る」と「みる」を組み合わせた観戦活動が、スポーツへの多様な関わり方への理解を深めることに効果的で合ったと推察される。

4. 結論

本研究で得られた知見から、「スポーツとの多様な関わり」に関する思考を深めるために、スポーツとの多様な関わり方を組み合わせた活動を取り入れることや自分で考えてグループで共有し、人の考えを聞いた上でもう一度自分で考える活動が効果的な授業方略として導き出された。

5. 主な参考文献

- 1) 文部科学省 (2022) 第3期スポーツ基本計画